

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 かたくり)

事業所番号	0691500060		
法人名	社会福祉法人 長井弘徳会		
事業所名	グループホーム リバーヒル長井館町		
所在地	長井市館町南9-72-10		
自己評価作成日	令和 4 年 1 月 30 日	開設年月日	平成 26 年 6 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

活気あふれる商業施設の中に当事業所はあります。新型コロナウイルスの影響により現在は以前のように地域行事への参加や積極的な交流は出来ていない状況にありますが、今できることに力を入れ地域代表の方を交えた避難訓練の実施や廃品回収への協力等を行ってきました。またホーム内では入居者の方々がホームの畑で育てた野菜や花等から季節を感じることが出来るように収穫した野菜で調理を行ったり、花を飾って楽しめるようにしています。午前、午後とリハビリ体操やレクリエーション活動を行い、筋力の維持や転倒防止に努めております。介護計画作成の際には全員でアセスメントを行う事でご本人様の思いに寄り添ったケアができるようまた職員個々のスキルアップに繋がるように努めております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・インワン		
所在地	山形市桜町四丁目3-10		
訪問調査日	令和 4 年 3 月 1 日	評価結果決定日	令和 4 年 3 月 14 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者との日頃の会話や行動から職員が気付いたことを気持ちシートに職員全員が記入し、そこから得られた一人ひとりの思いを大切にしたい介護計画を作成し、「できた喜びをお互いに関心し笑い声が響く我が家」の実現に向けて努力している。コロナ禍で外出が制限されているが、リハビリや運動、レクリエーション、手工芸などの創作活動、おやつ作りなど頭と体を使ったリハビリを行い、心身機能の低下を防ぐ工夫を行っている。運営推進会議では民生委員や家族が参加しているが通常の活動報告の他、ユニットごとに行っているケアの状況や事例などわかりやすく紹介され、委員がグループホームや認知症について理解が深まり、意見を引き出す効果もあり、地域に根差した事業所運営が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票のみ記載します。

自 己 外 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	令和元年度に理念の見直しを行い、各ユニットに自分たちの目指すケアとして掲示して理念に添った関わりができていくかケース検討会などで確認している。	事業所理念の実現に向けてユニットごとにケアの目標を掲げ、目につきやすいところに掲示している。特に介護計画の見直しに当たっては、職員全員で気持ちシートを書き、アセスメントを行い、利用者の状況を確認しながら、その人らしさを大切にケアにつながるよう努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で地域行事も中止が相次ぎ思うような活動が出来ていない状況にある。今年度においては子供会が行う廃品回収、さいとう焼きに協力参加した。今後もコロナの状況を見ながら柔軟に対応していく。	コロナ禍で地域との交流が困難な状況の中ではあるが、子供会の廃品回収への協力やおさいとう焼きへの参加するとともに、火災訓練時に(の)運営推進会議委員に参加してもらうなど、これまでの地域との繋がりを継続するよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にてホームの運営状況や入居者の日の生活の様子伝えながら認知症の方の支援のあり方などもお話ししている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市福祉あんしん課職員、地域の代表の方として民生委員、ご家族代表の方、ホーム職員で2ヶ月に1回開催している。ホームの運営状況や入居者の様子を報告するとともに認知症の方への支援のあり方などを交えて伝えている。委員からは行政の動きや地域の情報を伺うとともにホームへの要望や助言等、意見交換が活発に行えるよう雰囲気づくりに努めている。頂いた意見は会議録閲覧やスタッフ会議等でホーム職員に伝達し、サービスの向上に活かしている。	市職員や地区ごとの民生委員、家族代表をメンバーとして2か月ごとに開催している。コロナ感染拡大のために1回は書面開催となったが、その他は通常とおり開催された。会議では入所者の状況や活動報告、事故報告を行うとともに、各ユニット主任が日頃の具体的な取り組みや事例を報告することで、グループホームの特徴や認知症ケアの実際について理解を深めていただくとともに、委員から意見を出しやすい雰囲気づくりとなっている。また、委員から行政の情報や地域の情報、意見をいただき、双方向的な会議運営となっている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加協力頂き情報を得るとともに、なにか不明な点や疑問点などが生じた場合は市に連絡し連携を取るようになっている。また市の生活支援員の訪問があり、ホームの実情を知って頂き助言などを得られるようになっている。	市職員から運営推進会議に参加いただき、事業所の状況を理解し、行政情報を提供していただいている。今年度後半から市の生活支援員が感染状況を考慮しながら訪問しており事業所の取組みについて理解していただいている。個別の課題については窓口に随時相談しながら問題解決に向けて連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	法人内の研修に参加し、他の職員へも資料を回覧し、理解を深めている。更衣室には、身体拘束禁止行為の明示をし、GHで身体拘束適正化委員会を3ヶ月毎に会議を開催し、現在の状況を話し合い、内容についてはスタッフ会議で全職員に周知徹底できるようにしている。常に入居者1人ひとりの行動を把握し、職員間で情報を共有したり、声かけや見守りを行い、ご利用者様が生活しやすい環境作りを心がけている。	身体拘束等の適正化のための指針を策定し、読み合わせや研修会参加、復命の回覧等により理解を深めている。身体拘束適正化委員会を3か月ごとに開催し、センサーマットの必要性など一人ひとりの事例を検討している。離設したがる利用者には寄り添いながら声掛けや見守りを行い安全の確保を図りながら、利用者が安心して「ふつうの暮らし」を送れるような環境づくりに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の研修会に参加した職員よりスタッフ会議にて伝達研修を行ったり、資料を配布するなど、職員各々が知識と理解の向上へと繋がるように働きかけている。職員間でも入居者について相談しやすい雰囲気づくりを心掛け虐待防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人主催の研修にて権利擁護やコンプライアンスの動画視聴を行った。また成年後見制度や日常生活自立支援事業のリーフレットを職員に配布し、どのような制度なのか読み込みを行って理解を深めている。			

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居が決定した際に事前に契約書・重要事項説明書をご家族に渡し、内容確認をしていただき、入居当日にも説明を行った上で不明な点等をご家族に確認しながら署名捺印頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で「ご家族代表の方より、意見や質問、要望を頂く時間を設けている。また法人においては3年に1度アンケート調査を実施しており、ご利用者様やご家族様の意見を頂いている。コロナ禍で直接ご家族とお話する機会は少なかったが、電話や受診時などでの会話の中からもご意見や要望を伺うように努めている。	運営推進会議に家族代表から参加いただき意見をいただいている。参加できない場合も文書で意見をいただいたり、普段の面会時や通院時には家族の意見や要望を聞くことを心掛けており、意見を表しやすい関係が作られている。法人で3年ごとに家族アンケートが実施され、意見等をサービス向上につなげている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議で意見や提案など職員間で話し合い、サービスの質の向上へ繋げている。会議以外でも気軽に相談できるような環境作りや口頭や申し送りノートなども活用し情報共有に努めている。運営に関しての悩みや方向性の確認などはエリア部長やGH担当部長に相談助言を頂き必要時は管理運営会議に反映されるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回自己評価表を各職員が記入し、ホーム長との面談を行っている。また普段の会話の中から職員の思いや意見などを汲み取るよう心がけている。職員の努力を認め、苦手な部分については一緒にどうのようにしていったらいいのかを考え各自が向上できるような環境づくりに努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	所外研修や法人内の委員会主催の研修など、個々の力量や向上心に添って参加を促している。また所内研修を実施して職員のスキルアップやレベルアップができるように取り組みを行っている。	管理者は、職員の自己評価やそれを踏まえた面談で個人目標の達成状況等を把握し、力量の把握や相談に当たっている。所内研修では感染症・認知症ケア・身体拘束防止などについて職員が当番制で講師を務めている。また、法人の研修、外部研修への参加、資格取得への支援など、職員のスキルアップに繋がる研修を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍で同業者との交流する機会は持てなかった。今後コロナの状況を踏まえて実施していく。	法人内他のグループホームの管理者や、法人のグループホーム担当者との間で、情報交換や意見交換を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望を受け自宅や施設へ訪問し、ご本人様の困っている事や要望などを傾聴しご本人様の思いを汲み取れるよう努めている。また、不安が軽減できるようにホームの見学や、ご家族様よりセンター方式のシートを記入して頂き、ご本人様の希望や不安を事前に把握し、入居する際には安心して入居できるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様などが不安に思っている事や困っていることに耳を傾け、安心して相談していただけるように努めている。又、ご家族様との話し合いの中で今後の方向性について一緒に考えながら要望等も組み入れ、より良い関係を築いていけるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様との話し合いの中で、今ご本人様が必要としている支援は何かを考え、穏やかに過ごして頂けるような方向を見極める努力をしている。入居に対して少しでも環境に馴染めるように思いを伺いながら対応を心がけている。在宅生活のケアマネとの連携を図りより良いサービスの提供を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念である「できた喜びをお互いに感じ笑い声あふれる我が家」念頭に職員一人ひとりが、入居者個々とのよりよい関係を築けるように努めている。個々の状態を把握し環境を整えながら、その人にとっての笑い和み、望みある日々とは何かを考えながら共に寄り添いながら信頼を築けるように心がけている。			

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や季刊誌等を活用し、ホームでの様子を報告している。コロナウイルス感染症拡大防止のため面会の制限があるが予約制で対面での面会を実施している。ご家族様と一緒にご利用者様の立場になってより穏やかな生活が送れるように考え、理解を深めるようにしている。また、変化があれば、都度電話での報告を行い信頼関係を築けるように心がけている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染拡大防止のため、外出や面会の制限を行いゆっくと過ごす時間を設けることができなかった。親戚や知人からの手紙や写真等でつながりを図られていた。紅葉ドライブでは長井市内の名所を周り懐かしいとの言葉も聞かれた。制限の中でも馴染みの関係が途切れないように配慮していく。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の個性を活かしながら、円滑な関係が築けるように配慮している。また、より良い関係性が築けるように、食席にも配慮している。お茶会やレクリエーションなどを通して、お互いの事を理解し認め合う関係性が出来き、同席者同士で会話したり、手工芸などを一緒に行うなど積極的にされている。ご利用者様の間に職員も入り、会話の橋渡しを行い、ご利用者様同士関わりやすいように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退去された際はご家族様に確認しお見舞いや面会に出かけ、本人の状態を確認している。今年度はコロナウイルス感染症拡大防止のためできなかった。退去されても不安やわからないことがあればいつでも相談できる体制を整えている。退去した際に何かあれば連絡してほしい旨を伝えている。		

自 己	外 部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様・ご家族様の意向や思いを実現できるように、日々の言動や行動を記録に残し、日々の介護にあたっている。また、センター方式を活用し、ユニット職員やご家族様からも記入していただき、個々の気づきを職員間で共有し、ご本人様の思いや意向の把握に努め介護を実践している。	一人ひとりの気持ち、やりたいことを大切にすることを重視して、生活歴や趣味、好きなこと等を本人及び家族からの聞き取りで把握し、また、利用者との普段の会話や行動から得た気づきを職員全員が気持ちシートに記載して、本人の思いや意向を実現できるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅生活中のケアマネージャーにお話をお聞きしたり、ご家族様へセンター方式のシートの記入を依頼し、これまでの生活環境、ご利用者様・ご家族様の思い、生活歴や馴染みの暮らしなど状況把握に努めている。わからないことがあれば、ご家族様へ確認し、適切なケアを行えるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の体調や、生活リズムに合わせながらレク活動や作業を提供し、残存能力等の現状把握に努めている。一日の過ごし方や生活リズムを把握し、ちょっとした変化が見られた際には素早く気づくことが出来るように記録に残している。また、継続して観察ができるように申し送りで伝達したり、伝達用紙を活用している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式C-1-2シートを職員全員で記入することで、ご利用者様が望んでいることは何かなど深く理解し課題や思い・希望を汲み取ったケアプランの作成してセンター方式シートから得られた情報をもとに3ヶ月毎評価を行い、ご本人様・ご家族様の意向を参考にご本人様の機能維持を図っている。必要時は医療連携看護師や専門職にもアドバイスを頂いている。	3か月ごとにモニタリングを行い、6か月で計画を評価し見直しを図っている。介護計画は職員全員で記入した気持ちシートから本人の思いをまとめ、担当者会議を話し合い、家族の意向も聞きながら、理念の「できた喜びをお互いを感じる」ことができるような計画となっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施状況や言葉・表情・心身の変化など毎日記録し、情報共有に努めている。3ヶ月毎評価し、実施状況の確認と見直しを行っている。ケアの中での気付いた点などは、伝達用紙に記録し職員間で情報を共有しながら、実践や見直しに活かしている。			

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度はコロナウイルス感染症拡大防止のため、地域行事への参加が難しい状況であった。サイトウ焼きや資源回収などへ職員のみではあったが行うことができた。自宅でも雑巾縫いをして寄付などされていたご利用者様もおり、今後地域への雑巾寄付など再開できるように準備していきたい。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期的な受診を行っている。日頃の様子や心身の状態の変化など「受診時連絡表」に記載し、主治医へ情報を提供し、主治医からの指示を頂いている。ご家族様の付き添いが困難な場合や書面ではうまく伝えることが出来ない時など、ご家族様へ説明し、職員が同行し直接主治医へお伝えしたり、適切な看護がうけられるようにしている。	従来からのかかりつけ医への定期受診を支援している。通院時は「受診時連絡表」に日頃の生活の状況や職員から主治医に聞きたいことを記入し、主治医から診察結果や指示を記載していただき、主治医・事業所・家族が情報を共有できるようになっており、安心して医療が受けられるよう工夫している。家族付き添いが原則としているが、必要に応じ職員の付き添いも行われている。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師を配置し、週1回訪問し健康管理に努めている。いつでもすぐに連絡が取れるように医療連携看護師は専用の携帯電話を所持し、状態の変化時は速やかに連絡をとり助言や適切な対応ができるようにしている。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、必要な情報を医療機関へ提供し、ご家族様へ説明し了解のもと主治医、ご家族様と職員とで現在の状態を確認する場を設けている。また、ご家族様からの連絡から情報を得ている。退院時には必要な情報収集を行い、ご本人様・ご家族様が安心してできるように居室環境を見直し整えている。電話等で病院との連携も密にとっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」についての説明と同意を得ている。医療連携看護師の配置により看護ケアの体制を整えている。現在は対象者はおられない。看取りに関するマニュアルの確認と研修会を行い終末期のあり方をチームとして考え対応できるようにしていく。	入居時から重度化にかかる指針について説明し、家族の同意を得ている。身体状況の変化や急変時等は、家族・主治医・医療連携看護師と連携を図りながら方針を話しあい、情報共有しながら支援している。看取りに関するマニュアルの整備、研修会の開催など、チームで終末期を支援する体制づくりに努めている。		
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月訓練の日を設けて実施している。マニュアルに基づいて、訓練を行い実践力・対応力の向上に努めている。また、マニュアルはすぐに確認できる場所へ明示している。訓練の日に参加出来なかった職員も反省などを確認して職員間で周知している。	/	/	
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の指導のもと、訓練を実施している。その際には、推進委員会の方にも参加して頂き行っている。事業所独自でも、毎月訓練を行いマニュアルの確認や見直しをおこなっている。	隣接する同法人施設と合わせて年2回、消防署の指導のもと、火災訓練を実施している。訓練には地域の運営推進会議委員の参加も得ている。防災計画、水害マニュアルも作成し、訓練係を中心にマニュアルの確認、救急時の対応、避難場所の確認など毎月行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、人生の先輩であること、個人の人權を尊重することを意識しながら声かけや関わりを持って対応している。ご利用者様の気持ちに寄り添ったケアを心がけている。不適切な対応がないよう、日頃から職員間で意識付けをし合ったり、スタッフ会議の際にも尊厳やプライドに配慮した関わりが出来ているかなどを話し合い確認し、ケアに努めている。	人生の先輩であることを意識し、本人が好きなこと、できること等本人をよく知ることを大切に、声掛けや関わりを持ち、不都合な対応がないかなどスタッフ会議で話し合いを行っている。介護計画に本人の気持ちに寄り添った支援項目を位置付け、人格の尊重に努めている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人おひとりの個性を尊重し、希望や思いを汲み取れるよう環境や状況を工夫しながら、自己決定できるように配慮している。	/	/	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の気持ちや体調、その日その日の希望に合わせてながらその人らしく過して頂けるよう、無理なお誘いをすることなく、自室やフロアで過して頂いている。入浴の際は、前もって声がけをし、気分が乗らない時は、時間をずらしたり、翌日にずらしたり、ご本人様のペースで過して頂けるように環境に配慮しながら関わっている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台の横にご本人様の洗面用具を準備し、毎日個々の可能な範囲で整容を行っている。入浴後にご本人様できれいに髪を整えたり、化粧品を使用したいご利用者様に、日課に差し障りのない時間配分で入浴にお誘いする等、職員間で情報共有し工夫している。また、入浴前には着替えを職員と一緒に選んで頂いている。男性の利用者様のひげ剃りもご自分でできるように手渡したり、剃り残しがあった際は、お手伝いしながら剃られるように関わっている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副菜は外部からの宅配を使用しているが、果物や時節柄の副菜を手作りして季節を感じていただけるような工夫をしている。また、ご本人様の嚥下状態に配慮しながら食事形態や摂取量を検討している。ご利用者様と味噌汁の下準備や食器・お盆拭きなどを一緒に行い、必ず謝意をお伝えしている。	副菜は外部の宅配を利用しているが、盛り付けやみそ汁の準備など利用者と一緒にいき、家庭的な食事になるよう努力している。季節の行事食、パンやケーキのおやつ作り、畑で収穫した豆の活用によるじんだん作り、年忘れ会でのちらし寿司の出前食等々、食事を楽しめるように様々な工夫を行っている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人おひとりの状態や習慣、嗜好に合わせて食事形態や食事量を変更しながら提供している。食事摂取量・水分摂取量の観察が必要なご利用者様には、チェック表を使用したり、申し送り記録に残し職員間で把握に努めている。食事がなかなか摂れない方にはご希望の物をお出している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声がけを行い実施して頂いている。また、義歯洗浄剤を使用したり、コップや歯ブラシの消毒を曜日を決めて毎週2回行っている。口腔内の状態に留意し清潔保持に努めている。			

自己 外部		項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄板を使用し、お一人おひとりの回数や便性、排泄パターンを観察している。定時誘導を行ったり、声がけのタイミングに配慮しながら自立支援に努めている。	排泄板を使用して適時の誘導に心掛け、排泄の自立支援に努めている。困難事例は介護計画に位置付け、職員で話し合い情報共有しながら声掛けし、気持ちよく暮らせるよう工夫している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を毎日確認している。リハビリ体操や体を使ったレク活動を実施している。日頃からお茶会の際は水分摂取の心がけをしながら飲み物にも変化をつけている。また、乳製品やオリゴ糖入の手作りのお茶菓子を召し上がって頂き、便秘予防に努めている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴前に事前に声がけをしている。ご本人様の体調に合わせて午前中に行ったり、気が進まない際は時間や日にちをずらしたりと変更している。入浴時間にも注意し、常に情報共有を行っている。衣類の準備、浴室への行き帰りや入浴中に会話をしたり楽しみながら実施できるように工夫して支援している。	本人の希望や体調を考慮しながら週2回の入浴を確保している。機械浴も整備され、身体状況に合わせて適切な入浴ができるよう支援している。入浴を嫌がる方には、タイミングを見計らった声掛けや日程の変更などに配慮しながら、入浴が楽しめるよう工夫している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	暑がりなご利用者様、寒がりなご利用者様の室温、習慣としての室内灯の調光、乾燥肌や痒みのあるご利用者様の湿度、お一人おひとりに合った居室環境で快適に休んで頂けるように配慮している。また、ご家族様にご協力頂き、寝具や家具、飾り物や趣味の物など、ご本人様が慣れ親しんだものに囲まれて安心して頂けるように持参して頂いている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員2名で処方箋の確認をしながら薬分けを行っている。1週間分の薬を並べ、一覧表と照らし合わせ、お一人おひとりの名前と個数を確認しながら毎回用意している。また、内服時はご本人様の前で「名前」「いつ内服するものか」を声に出し再確認してから内服している。薬の変更時は訂正した一覧表の脇に変更した薬がわかるように処方箋を掲示し、いつから開始するのか、注意点、副作用などもわかる様にしていく。体調の変化など留意し、記録に残し、次回の受診に主治医へ報告しやすいように対応している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の習慣があったご利用者様には食器拭きや洗濯物たた、雑巾縫い等、塗り絵や手工芸が好きなご利用者様には季節の塗り絵や室内装飾を他のご利用者様とも一緒に行えるようお願いしている。お一人おひとりの得意分野を活かせるものを行いながら、張り合いのある時間を過ぎて頂けるように工夫している。また、長時間にならないように配慮したり、終了後は必ず感謝のお気持ちをお伝えしている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は2回目のワクチン接種が済んだことや、コロナウイルス感染症の経過が落ち着いてきた際は、法人内の規制範囲内での活動を行った。外部との接触がないようにバスハイクや好天時に個別にホーム周辺の散策を行うなど、規制内のできることを工夫しながら行った。	コロナ禍で例年のような外出が制限されているが、秋に紅葉ドライブを楽しむことができた。また、近隣への散歩や通院時の家族との外出、プランターへの水やりや中庭に出てティータイムを楽しむなど、機会を逃さず戸外で楽しめるように工夫をしている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を管理しているご利用者様はご家族様に金額の確認をし職員間で把握している。入居者間での現金授受などトラブルのないように、ご家族様にも都度報告しながら注意している。現在はコロナウイルス感染症拡大防止のため、買い物は行っていない。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と話がしたいとのご希望があった際はホームより電話をさせて頂きご家族様にご協力頂いている。携帯電話を持参しているご利用者様もおり、ご家族様のご協力を得ながら使用方法や充電方法に留意し、ご家族様との大切なひとときをもてるようにしている。また、本年度よりオンライン面会を実施しており、ご家族様、ご親戚様・ご友人とのつながりが途切れないように対応している。ご本人様へ届いた郵便物はお渡しし、一緒に見せて頂いたり嬉しい思いを共有させて頂いてる。郵便物の返信はスムーズに行えるように対応している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様と職員がアイデアを出し合いながら協力して制作した季節ごとの装飾を廊下やフロアに展示して楽しんで頂いている。室内空間は、毎日定時に室温と湿度を確認記録し管理している。冬季間はフローアと各居室に加湿器を設置し湿度管理を行っている。西日が差すフロアのため、夏場は直射日光が当たらないように配慮し、レースカーテンやブラインドを活用してこまめに調節している。ホーム内が乱雑にならないように整理整頓に気をつけ、定時清掃を行い、清潔保持を心がけている。	季節感のある装飾や利用者の思い入れのある作品を飾っている。湿度・温度の適切な調整に努め、また換気にも配慮して感染予防に努めながら快適な空間になるよう努力している。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地良く過して頂けるよう、食席の配置、入居者同士の関係性を常に留意している。フロアではお一人おひとりが自由に好きなことを楽しめる時間が取れるように、雑誌や本を準備したり、さりげなく見守りをおこないながら場を工夫している。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベッドとクローゼット、床頭台を備え付けている。枕や毛布等の寝具、椅子やボックス等の使い慣れた家具等、馴染みの物を持参して頂き、少しでも安心して過して頂けるように配慮している。また、テレビ・CDラジカセを持参され、好きな番組を観たり曲を聴いたりする時間や空間づくりを行いながら、お一人おひとりに添った対応に工夫している。	馴染みの物を大切に、以前の生活の延長となるよう配慮している。各居室にも加湿器を設置して湿度管理を行っている。飾りなど工夫しそれぞれが思い思いに過ごせるように努めている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入り口には名前を明示し、ご本人様がわかりやすいようにしている。また、明示しても迷ってしまうご利用者様には矢印をつけた案内表示を行っている。自動で点灯・消灯するトイレには、トイレ内の扉に説明し、混乱なくスムーズに排泄が行えるようにしている。洗面所にある個別の洗面かごは、ご本人様のADLに合った配置にし必要な物を入れて自由に使用できるようにしている。ホーム内の動線に障害物のないよう留意しながら、自由に過して頂けるように対応している。			